

凡木をうつしうゆるには先念を入れ、東西に去るしを付て、其方角を替ふべからず、大きな木は枝のふとき分は程よく切去、梢をも長く切捨べし、かやうにすれば木の上の體すくなくなり、枝葉もうすくなるゆへ、風にもさのみうごり、根の方の力つよきゆへ、木いたみて枯ることなく、凡木を種するには第一ほりとる事に念を入べし、もし横根遠く出てほりがたくは、大なる根は能比より伐べし、大なるは鋸小さき木ならば、根にはちを付る事木のかつかうより、少しはちを大きく付べし、大なる木ならば、此次の木を種る所に記すごとく、鳥居を立中に釣上るやうにすべし、かくせざれば木の根を底まで掘まはしたる時、その立根上のおもりにをされて、おる、事あればなり、尤細き木は夫に及ばず、はちを包む事、古きこもかたはらの類を、一尺ばかりに切て、残らず押あて、其上を繩にて念を入幾所も多くからげ、少も土の落ざるやうに包むべし、木の枝に印を付て、前生たる時の東西の方角かはらざるやうに種べし、木の根のかつかうより種る地を、ひろく深くほるべし、

〔地錦抄〕草木植作様之卷中

一諸木植替時分は、夏木のるひはすべて春秋也、春は葉の未出時、秋は落葉して後植替べし、故に二月と九月よし、冬木のひは夏植替べし、春葉出てかたまりまげりたる時よし、四五月也、

〔草木育種後編上〕移栽之事

花鏡曰、凡木有直根一條、謂之命根、趁小時栽便盤屈、或以磚瓦盛之、勿令直下、則易於移動、若大樹稱春初未芽時、或霜降後、根旁寬深堀開、斜將鑽心、釘地根截去、惟留四邊亂根、轉成圓槩、仍覆土築實、不但移栽便、而結實亦肥大、灌園先生云、久しく植付たる木を荒根といふ、これを植かへる事大事なり、大樹は直ぐに抜がたし、時のよき時、根の廻り半分堀り、根を切て元の如く土をかけ置、枝も少しきり置、來年に至り枝を多くきり、前年残したる根を皆伐りて、繩にて巻き、土の落ぬやうにすべし、扱植て根の下へ土のゆきと、くやうに棒にて突込べし、又根の上へ細き土をかけ、水を多